

平成28年4月1日から

障害者差別解消法が施行されます

この法律は、障害のある人への差別をなくすことで、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指しています。施行されると、不当な差別的取り扱い、行政機関だけでなく民間事業者でも禁止されます。また、障害のある人への合理的配慮については、行政機関には法的な義務が生じ、民間業者には努力義務が生じます。障害を理由とする差別の解消は、社会全体の責務です。一人ひとりがこの法律を理解し、誰もが暮らしやすい社会を作っていきましょう。

また、千葉県には「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」があります。障害を理由に差別されたり、つらい思いをしたら、専門の相談員が無料で相談に応じます。

★不当な差別的取り扱い

障害を理由として、サービスの提供や入店を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような行為。



★合理的配慮

車いすの方が乗り物に乗る時に手助けをすることや、筆談や読み上げなど障害の特性に応じた対応をするなど。



お問合せ ● 多古町保健福祉課福祉係 ☎ 76-3185
香取健康福祉センター ☎ 0478-52-3613 (相談窓口)

子どもの進学と心の健康

文/国保多古中央病院 内科 宇都宮隆法

4月は学校や職場などで人間関係に大きな変化がある時期ですが、いじめなどの問題が発生する時期でもあります。子どもは男女とも10歳頃になると、人付き合いにおいて時に保護者よりも学友が優先されるようになり、自宅の近所が中心であった交友関係も趣味や気の合う仲間同士の付き合いへと変化します。

また、自分が学友にどのように見られているかということに非常に敏感になります。学校の成績、運動能力、クラスでの発言力、容姿、異性からの評判などが本人のアイデンティティや自己顕示欲を形成し、それをわずかも傷つけられてしまった場合、子どもによっては相手に過剰に攻撃を加えてしまい、相手が傷つくことに対して配慮ができないのです。



「ポイント」 子どもがぶつさらばう返事をしたとしても、子どもの心を元気づけることができます。子どもがぶつさらばう返事をしたとしても、子どもの心を元気づけることができます。

10歳頃の子どもの生活にとって、学校生活はストレスが強いんだよ



小学校から中学校に進学して新しい人間関係を築かなければならない時、生徒は精神的に未熟なままアイ

「病院便り」 多古中央病院の受付時間は午前11時30分までとなっております。それ以降は、医師も検査や手術などで対応できないこともあるため、受診前に必ず確認の電話をお願いします。

76-2211



私の一冊

『天使のナイフ』

私が紹介するのは、平成17年に江戸川乱歩賞を受賞した作品です。

主人公・松山貴志の妻が、生後5カ月の娘の目の前で殺され、犯行におよんだ3人は13歳の少年だったため罪に問われることはありませんでした。事件から4年後、この3人が次々と襲われ、犯人をもつとも憎んでいる松山が容疑者として疑われます。しかし、松山自身何が起きているのかわからず、そもそなぜ彼らはあんな事件を起こしたのだらうかと少年たちのことを詳しく知りたくなり調べ始めます。次々と明らかにされる真実と次の展開がどうなるのかわからなくて、どきどきわくわくしながらページをめくりました。最後の10ページくらいで



本植人:松谷哲也さん(井戸山)

想像をもつかない大どんでん返しがあり、最後まで楽しめる作品でした。また、ミステリーだけでなく、少年犯罪をテーマに少年法による加害者の情報保護や被害者側のやるせない心情に対する法律の理不尽などがわかりやすく描かれていて深く考えさせられました。

私には、50歳くらいの時に仕事で移動図書館用の本を選書していたことがきっかけで本格的に文学小説を読み始めました。今は月に約25冊とたくさん本を読むので、同じ本を読まないようにリストを作っています。また、体を動かすことも好きなので、遠方から来る知り合いとゴルフを楽しむんだりと趣味を満喫し、充実した生活を送っています。

43年目



『天使のナイフ』 作: 松谷哲也 発行: 講談社

妻を殺した3人は、13歳の少年だったため罪に問われることはなかった。4年後、犯人の1人が殺され、主人公は疑惑の人となる。裁かれなかった真実と必死に向き合う男を描いた社会派ミステリー。

今回紹介した本は、4月15日(金)オープンする多古町立図書館にあります。リクエストにもお応えしますので、お気軽にご利用ください。多古町立図書館 ☎ 79-3406 開館時間: 火~土は午前9時~午後7時 日曜日は午前9時~午後5時 【休館日】毎週月曜日・祝日 年末年始等

文芸コーナー

俳句

野焼する煙に農婦見え隠れ 次浦 高橋 幸三
ダンディーと言はれ取らふ春帽子 水戸 鈴木やすし
冴え返り転がるものにビタミン剤 南中 木内 慶子
薄氷光あつめて崩れたり 水戸 高岡 克子
背を丸く一人バス停寒戻る 喜多 瓜生 恒子
野火過ぎて燻るままに舫ひ杭 田町 渡部 健
子が踏めば田の薄氷目覚めたる 仲町 香取 省吾

短歌

亡き母の「大切なもの」と書かれるし包み開け見るひとりの時に 南玉造 越川 節子
土産店にワイン優しく振舞われ雨天の旅を労わられる 高野前 鈴木沙和子
一枝の蠟梅活けたる茶の間より日毎に香るわが部屋がし 南中 宮内 貞子
枯草の中にさみどり覗かせて露の臺は春を呼びいる 大高 藤井 たか
外しおく老眼鏡は眠らずに吾がかたはらの夜を見守る 南並木 飯田ふみ子
若き日の勢い失せし吾ならんおろと鈴生りの袖子を見上げる 林 高橋 宏子
逆光の梅の古木に幾千のつぼみの固き大寒の朝 柴井 佐藤 登久